



「緑内障の話」

炎症の結果、糖尿病や高脂血症を発症しやすく、タバコを止めない、

No.25

緑内障は、現在失明する眼科疾患の第1位ですが、

視神経が次第に減っていく病気です。わが国の緑内障の有病率は、40歳以上でみると17〜18人に1人ですが、

70歳以上では7〜8人に1人となり、加齢と共に上昇します。つまり、いつの間にか緑内障になっているとい

う話ですが、やっかいなことに病気がかなり進行しないと自覚症状が出てきません。どのように予防、対策したらよいのでしょうか。

緑内障を発症する主要因には、加齢、眼圧、近視があります。

まず、加齢は予防できませんが、生活習慣病は予防可能です。加齢による慢性

炎症の結果、糖尿病や高脂血症を発症しやすく、タバコを止めない、刺激の多い食事や飲料、偏食を好む事は、緑内障にとっても危険因子となります。ただ、治療で使用されるカルシウム拮抗薬やスタチンは、神経保護や血管の炎症を抑える働きがあり、緑内障の予防効果が期待されています。

次に眼圧ですが、緑内障を発症する眼圧は人により異なります。眼圧には眼房水の産生量、房水が眼外へ出て行く流出抵抗が関与しますが、これらは加齢と共に減少し、眼圧は下がります。ですから、眼圧が正常値の範囲内でも、加齢と共に相対的に眼圧が高くなれば、緑内障を発症します。日本

人は正常眼圧の緑内障が大多数ですから、若い頃から自分の眼圧を何度か測定し、数値を知っておくことです。

最後に近視ですが、近視が進行すると眼球が後方に伸びて、視神経の形が変形した軸性近視になります。軸性近視は視神経が傷んで緑内障の変化が現れやすくなるので、近視進行を予防します。対策は適切な度数のメガネをかけることです。近視なのにメガネをかけていない、また度数の合わないメガネを使用すると悪い影響が出ます。とくに若い人は、メガネやコンタクトレンズの検診は必ず眼科で行い、緑内障になっていないか、視神経の量は減っていないか、定期的に診察してもらおうのが大切です。(院長・伊田 宣史)

人は正常眼圧の緑内障が大多数ですから、若い頃から自分の眼圧を何度か測定し、数値を知っておくことです。

最後に近視ですが、近視

が進行すると眼球が後方に伸びて、視神経の形が変形した軸性近視になります。軸性近視は視神経が傷んで緑内障の変化が現れやすくなるので、近視進行を予防します。対策は適切な度数のメガネをかけることです。近視なのにメガネをかけていない、また度数の合わないメガネを使用すると悪い影響が出ます。とくに若い人は、メガネやコンタクトレンズの検診は必ず眼科で行い、緑内障になっていないか、視神経の量は減っていないか、定期的に診察してもらおうのが大切です。(院長・伊田 宣史)



伊田眼科クリニック

- ・眼科一般
- ・日帰り手術
- ・コンタクトレンズ取り扱い

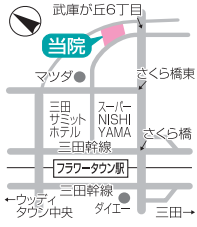
診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30	○	○	○	○	○	○	△
12:30	○	○	○	○	○	○	△
15:30	○	手術	○	△	○	○	△
18:30	○	手術	○	△	○	○	△

【休診日】木・土曜午後
日曜、祝日

TEL 079-556-8600

三田市武庫が丘7-7-4 エムズⅡビル1階

<http://www.ida-ganka.com>



武庫が丘6丁目

当院

スーパー NISHI YAMA
三田幹線
三田駅前
三田幹線
三田駅前
三田駅前

さくら橋東

さくら橋

三田